

# 不便さをぜいたくに

携帯電話も通じない掛川市の山間部にある「明ヶ島キャンプ場」(同市炭焼)が二十八日、リニューアルして三年ぶりにオープンする。「穏やかなる事を学ぶ」がテーマ。月明かりと星空の下、虫や鳥の声、川のせせらぎを楽しむ大人の空間と、あえて不便さを売りにしている。(赤野嘉春)

## 掛川・明ヶ島キャンプ場 3年ぶりリニューアル



食事などができるステージ付きのコテージ。掛川市炭焼

## 自然に囲まれた 大人の空間

JR掛川駅が車で一時間ほど。森町方面に延びる主要道路を外れ、細い山道に登るとキャンプ場に着く。カエデや桜などの樹木に覆われ、足を流れる川にはアマゴやカニが生息する。リニューアルオープンをプロデュースしたデザイン会社社長の松山拓也さん(四)「磐田市は『できるだけ自然に溶け込める空間を演出した。不自由をぜいたくに楽しんでほしい』と話す。

四千二百六十平方メートルの敷地には、コテージ六棟やドッグラン、炊事場などを備える。ひときわ目を引くのは、溪流沿いにせり出した「ウッドデッキサイト」(一基)と、高台に設置した「ステージサイト」(六基)。利用者が持参したテントを張ったり、ミニテーブルを置いて食事をしたりする。キャンプ場では全国



的にも珍しいという。電灯は最小限に抑えて星空が見やすいように工夫し、外部との連絡は管理棟の有線電話一台だけという。

同キャンプ場は、市が一九七八年度に整備。指定管理などで運営していたが、三年半前の台風被害で休止した。放置状態の解消に名乗りを上げたのが地元建設業「山田」(山田珠一社長)で、市から無償貸与で再整備に着手した。傷みが目立つ管理棟や雨漏りしていたコテージを修繕したり、駐車場の造成などに取り組んだ。

名称を「炭焼の杜」明ヶ島キャンプ場に変更。昨年十月に一カ月間プレオープンした際には、市外を中心に二十七組五十四人が訪れた。山田社長は「空き家状態では防犯上の危険もあった。多くの方に利用してもらい、中山間地の活性化につなげたい」と期待を込める。

利用期間は四月～十一月末。施設案内や料金などはホームページ「炭焼の杜キャンプ場」で検索できる。問い合わせは同キャンプ場「電0537(25)2507」へ。